

令和6年度 第2回 経営協議会議事録

日 時：令和6年9月20日（金）13時30分～15時30分

場 所：本部棟5階大会議室 ※Web会議併用

出席者：湊総長（議長）

天野委員、安藤委員、伊佐委員、伊藤委員、岩井委員、上田委員、小幡委員、門川委員、佐藤委員、關口委員、多田委員、出口委員、中西委員、長谷川委員、平野（俊）委員、平野（信）委員、町田委員、森委員、山越委員

欠席者：西脇委員、村尾委員

オブザーバー：山口監事、吉貴監事

- 令和6年度第1回経営協議会及び令和6年7月書面審議の議事録（案）について、確認のうえ、原案どおり承認された。

【 議 事 】

1. 執行部の体制について

令和6年10月1日付けで就任予定の理事について説明があり、意見を聴取した。

2. 国立大学法人京都大学運営方針会議の設置に伴う規程の制定及び一部改正について

国立大学法人京都大学運営方針会議の設置等に伴い、以下の規程について、制定又は所要の改正を行う旨説明があり、審議の結果、了承された。

- ① 国立大学法人京都大学の組織に関する規程（一部改正）
- ② 国立大学法人京都大学運営方針会議規程（制定）
- ③ 国立大学法人京都大学運営方針委員の任期に関する規程（制定）
- ④ 国立大学法人京都大学運営方針委員報酬規程（制定）
- ⑤ 国立大学法人京都大学役員会規程（一部改正）
- ⑥ 京都大学財務委員会規程（一部改正）
- ⑦ 国立大学法人京都大学会計規程（一部改正）
- ⑧ 国立大学法人京都大学監事監査規程（一部改正）

委員による主な意見は次のとおり（○：質問・意見 ●：説明・回答）

○：運営方針会議を意味のある組織にするためには、その役割と責任を明確にすることが重要であり、既存の組織との関係は整理したほうが良い。また、構成員が重要であるので、能力や適性のある人を選んでいくという意識を持つべきであり、構成員への研修やサポートが重要である。構成員について、外国籍や女性も徐々に増やしていくと良い。

●：議論しながら一番良い形を考えていければと考えている。

【 報 告 】

1. 経営協議会委員について

令和6年10月以降の経営協議会委員の任命予定について報告があった。

2. 運営方針委員の候補者について

運営方針委員の候補者とする予定の者について報告があった。

3. 令和5年度監事監査報告について

令和5年度監事監査の結果について報告があった。

委員による主な意見は次のとおり（○：質問・意見 ●：説明・回答）

- ：報告書で言及のある事務組織の改善ということはよく旗印には掲げるが、なかなか進まないという現状が様々な組織で見受けられる。どのくらいのプライオリティを置いて取り組まれているか。
- ：国際卓越研究大学に向けて、まず総長、プロボスト、CFO、この3者による意思決定の下、それを支える組織をしっかりと作っていく。その他、これまでの組織も、国際的に卓越した大学にふさわしい組織にしていきたいと考えており、教育や研究の組織については教職協働の組織を目指すよう検討を進めている。
- ：報告書において言及のある技術職員について、スケジュール感等をご教示いただきたい。
- ：スケジュールについては、この10月から新しい体制を始めるということを決めた。研究力を上げていくために技術職員は非常に重要であり、戦略的に技術職員を配置、採用できる体制の基本を整えたという状況である。
- ：監査されている組織体制の見直し等をもとにどのような成果が出ているかということに関心がある。大学の本業は教育研究であるため、教育研究に関する報告を受けたり、それらについて経営協議会で議論ができたりすると有難い。
- ：ご指摘のとおり大学の本業は教育研究であるので、それらの動きや成果については改めてお伝えしたい。
- ：研究者は多忙であり研究をほとんどできていない。基礎研究をする自由な雰囲気、時間、研究に没頭できるような環境が必要ではないか。
- ：ご指摘のとおりであり、現在は小さな単位で運営しており様々な事務を研究者が行っている状況である。大きなデパートメントに予算を付けるというような形も必要ではないかと考えている。
- ：URAを中心とした研究支援体制の再構築というのは、非常に大事なことである。日本では研究者になるのが一番偉いという風潮があるが、全員がそれぞれの役割に応じて協働するという考えにし、博士課程の在り方も研究者になる人と、そうではない人というのは同等にパスがあるというように教育の概念を変えないといけないと思っている。
- ：日本では、大学院は学者の道というイメージであるが、そうではない道もある。その点を公知するということが大事であると考えている。

4. 令和7年度概算要求について

文部科学省から財務省へ提出された令和7年度概算要求の概要について報告があった。

【取組紹介】

- ・ 学術研究展開センター（KURA）及びその取組みについて紹介があった。